

## モハマド・マニラル・イスラム研究員（バングラデシュ）



はじめまして。私はバングラデシュから来ましたモハマド・マニラル・イスラムと申します。バングラデシュでは防災救援省で次官として働いています。私はジャハングルナガル大学において環境地理学の修士課程を修了し、GIS とリモートセンシングの分野で学位を取得しました。現在の防災救援省での職務は、災害時における緊急支援のマネジメントや、セーフティネットプログラム等の人道支援活動を運営しています。また、地域と国際機関を繋げる役割も担当しています。さらに、南アジア地域協力連合(SAARC)としての活動も行っていて、ここでは、より効果的なコミュニティ警報システムの確立のための、リアルタイムデータを伝達する業務も行っています。他には、コミュニティレベルでのソフト防災として、災害管理トレーニング、防災教育、防災意識向上プログラムなども責任者として実施しています。

ご存じの通り、地理的にみるとバングラデシュは世界でも有数の自然災害が頻発する国です。バングラデシュ政府は、現在、災害発生直後の緊急対応と併せて、災害予防としての防災対策の拡充の必要性を認めています。最優先順位として、政府は国と地域の防災に関する計画の実行を確かにする情報伝達システムを効果的に生かすため、コミュニティレベルの予防、緊急対応、復興復旧、再居住の課題に焦点をあてています。また、政府は、これまで NGO や国際機関と連携して、サイクロンの予防や洪水リスク管理事業を重点的に実施してきました。しかし一方で、地震のような自然現象については未だ予想、緊急対応、リスク回避は難しくなっています。上述の通り、バングラデシュは地震が多発する地域が多く、歴史的にみても大都市などをおそった大規模地震の経験を多く有していることから、早急な対策が必要となっています。

そこで私の ADRC における研究として、日本が持っている地震防災の知識や経験を、バングラデシュの地震防災対策に移転できるような仕組みを検討することを目的とします。日本は数多くの専門家により、この分野において豊富な経験を持っていると思います。今回の研究を通じて、バングラデシュにおける戦略的に重要な方向付けを行うため、大きく寄与できると思います。ADRC の客員研究員プログラムは、バングラデシュにおける災害リスク減少のため、日本とバングラデシュ、ADRC を繋ぐ素晴らしい機会だと思います。

最後に、今回の機会を頂いた関係者の皆様にお礼を申し上げます。